

6/17 金

米27年ぶりに 0・75%利上げ

異例、物価高抑制

【ワシントン=共同】米国の中銀に当たる連邦準備制度理事会(FRB)は十五日、連邦公開市場委員会(FOMC)で、主要政策金利の誘導目標を0・75%引き上げ、1・5~1・75%とする決を決めた。一九九四年十一月以来、二十七年七ヵ月ぶりの異例の利上げ幅で、通常の三倍に及ぶ大きさだ。歯止めが利かない物価高の抑制へ金融引き締めを一層加速し、二〇一二年末には政策金利が3・4%に達する見通しだ。〔関連③面〕

利上げは三会合連続。五
月の消費者物価指数が約四
十年間で最大の上昇率となり、利上げ幅を前回より急

きよ拡大させた。米国債など保有資産の縮小も続け、市場に出回る資金を減らす。大規模な金融緩和を続行する日本との違いがさらに鮮明となり、日米の金利差拡大によって円安ドル高が促される構図が強まる。

パウエル議長は記者会見で0・75%の利上げを「通常のものではない」としつつ、七月二十六、二十七両日の次回会合でも0・5%か0・75%の大幅利上げを連続実施するとの見方を示した。急速な引き締めは物価抑制には必要だが、景気後退を招く危険性もはらむ。

